

1. 作成日	2019 年 7 月 5 日
学科・専攻名	史学科

教育課程・学習成果

1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

【現状説明】

史学科では教育課程編成・実施の方針に基づき、世界の歴史についての広い習熟と、各自が選択し専門とする「日本史」「東洋史」「西洋史」の個別分野における極めて高い達成との両立をできるよう、各科目の関係・順次性を明示した体系的な教育課程を編成し実施している。1 年次では、基礎演習などを通して歴史学の方法論を学ぶと共にプレゼンテーションの方法なども経験する。さらに、日本史・東洋史・西洋史の各概論の授業を中心に、日本と世界の古代から現代までの歴史に関する基礎的知識を修得する。2 年次からは、日本史、東洋史、西洋史の各コースに分かれて専門科目を学修する。特殊講義では歴史学のそれぞれの分野の学びを深め、入門演習では主体的に調査し、考える力の素地を身につける。3 年次からは発展的講義や講読科目で歴史学の学びをさらに深めると同時に、分野を 1 つに絞って演習を選択し、4 年次にかけて一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと卒業論文の完成を目指すという、体系的な編成となっている。また、学科のポリシーと授業科目との関係については、カリキュラム・マップや履修モデル等を通じて解説している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

学生の多様な学問的関心に対応するため、新カリキュラムを策定した（2019 年度から実施）。また、文学部共通科目として、「東アジア史」「20 世紀史」「ギリシア語」等の科目を新設し、学生の多様な学問的関心に対応できるようにした。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

【現状説明】

本学科では、全年次において 1 クラス 20 人以下の少人数演習科目を必修科目として配置し、卒業までの継続的なゼミ指導により、高度な専門的知識と読解・分析力、歴史像を自ら再構成する力を身につけられるよう注力している。1 年次の史学基礎演習 A・B では、歴史学研究の基礎修得を目的として、学科独自に作成した基礎演習テキストを基に授業を進め、初年次教育の充実を図っている。日本史・東洋史・西洋史の各コースに分かれた 2 年次には、入門演習を配置し、学生が専門分野へ円滑に移行できるよう配慮している。「漢文 A・B」「ラテン語 A・B」をはじめ、各種講読など多数の履修登録者がいる科目では、同一科目を複数コマ開講することで適正規模による授業運営に努めている。講義科目においてもグループワークやコメントシートを活用したフィードバック等のアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生の主体的参加を促すよう工夫している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

学生へのアンケート調査の結果を踏まえて策定した新カリキュラムでは、学生が自身のコースに特化して特殊講義を履修できるという選択肢を導入した。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。

【現状説明】

教育課程及びその内容、方法の適切性については、学科会議において、教育成果資料（授業アンケート、卒業時アンケート、学生生活実態調査、教学 IR データ等）の結果を参考に、検証している。とくに、成績の低い学生の状況については重点的に調査し、対応策を検討している。また、毎年度、次年度の時間割を作成する作業の際に、各科目の受講者数の確認、カリキュラムの妥当性、担当者の選定などを学科会議で検証している。とりわけ、1 回生向けに学科独自に作成している共通教材については内容の妥当性を検証し、改訂作業を行っている。また、原則 4 年に 1 度実施されるカリキュラム改革において、全学の教務委員会あるいはワーキンググループで全学的な観点からも、検証している。

その他の改善に結びつける取り組みとしては、全学の FD・SD 講演会、学科内の FD 研究会、FD 交流会（事例発表）、公開授業への参加、学外の FD 関連研修・講演会への個別参加等を通して行っている。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

1 回生向けに学科独自に作成している教材について学生の要望を取り入れ、教員間での議論も行った上で、内容をより充実させた。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

教員・教員組織、FD

1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任等)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。

【現状説明】

2018 年度開始時の教員組織は、50 歳代後半～70 歳代の教員が全体の約 40%であり、40 歳代の教員も 35%を占めるものの、若干の偏りを示している。そこで、退職教員の補充にあたっては、年齢層の引き下げを目指す。職位構成も教授 9 名、准教授 3 名でややバランスを欠いているので、准教授採用も積極的に考えていく。ただし、史学科全体のカリキュラムという観点からは、円滑な学科運営のために日本史・東洋史・西洋史各コースに 2～3 名の教授資格者が不可欠であるため、その点もおさえていく。カリキュラムとの関連については、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、日本史コース・東洋史コース・西洋史コースで構成されるカリキュラムに対し、各コースともに古代史から近現代史まで各時代を専門とする教員を満遍なく配置しており、カリキュラムと各研究分野が整合している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

退職した教授 2 名の後任として、40 歳代前半の准教授 2 名を採用したため、職位構成および年齢構成の偏りは大幅に改善された。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

東洋史コースは、教員 1 名が 2018 年度に急逝したため、ゼミ指導や特殊講義などコース運営に大きく支障をきたしており、現在後任を公募中である。

2. 学科・専攻独自の FD 活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。

【現状説明】

2018 年度は学科独自 FD として、近年増加傾向にある、さまざまな点で学習に困難を抱える学生に対して、どのような

2019年度 点検シート（個別の視点）

授業をするのが有効なのか、教員間で具体的事例を出しつつ意見交換し（毎月2回程度）、その結果を実際の学生指導に反映させた。こうした学科独自のFD活動には、毎回、全員（会議や病気等でやむなく欠席の場合を除く）が参加した。教育活動（授業内容の充実度や履修指導等）に対する学生の満足度については、「授業アンケート」や「学生生活実態調査」を基に、学科会議で検証している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

授業参加率の低い学生の一部が、さまざまな授業に出席できるようになるなど意欲向上が見られた。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

概論系科目については満足度が低い傾向にあるため、担当教員間でグループディスカッションし、改善策を検討する。

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

一般的なコメント（総評）
<ul style="list-style-type: none">●問題点が的確に認識されており、改善に向けて学科全体で議論を重ね、活動に取り組んでいると評価できます。●「概論系科目については満足度が低い傾向にあるため、担当教員間でグループディスカッションし、改善策を検討する」としたことについては、検討した内容を次年度に報告してください。
改善勧告コメント（具体的な改善の指示）

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見